

番組づくりと社会とのつながり



こまやかな感情の機微を拾い上げ 人と人とのふれあいの文化交流を描く



株式会社テレビ東京

『YOUは何しに日本へ?』プロデューサー

村上 徹夫

『YOUは何しに日本へ?』は、2度の特番と深夜帯での放送を経て、現在はゴールデンタイムでレギュラー放送中です。人と人とのふれあいが織りなす多彩な文化交流など、他の番組とは一線を画す独特の空気感が人気を呼んでいます。

日本を訪れた外国人に空港で突撃インタビューし密着取材する『YOUは何しに日本へ?』。なかなか独特なスタイルですね。

当初は、日本へ買い物に来る外国人客に密着取材しようという構想でした。しかし、都合よくそんな人を見つけるのは至難の業。そこで、逆に誰が何のために来るかわからない空港で待ち受け、

片っ端からインタビューを行ったところ、予想以上に興味深いYOU*たちを発見。もちろん仕込みは一切なく、これまで17,000人以上にインタビューしました。密着を断られたり、承諾されたのに連絡が途絶えたりすることもあります。そのハラハラ感や、密着までのプロセスもあえて番組の魅力として演出しています。

※同番組では、来日した外国人を総称して“YOU”と呼んでいます。

スタジオやナレーションにも、肩ひじ張らないゆるさを感じられます。

異文化のYOUたちは、日本人には予想外の言動を取ることも少なくありません。「えっ、何で?」という視聴者の感情をリードするのが、VTRのテロップやスタジオMCのパナナマンさん、ポビー・オロゴンさんのナレーション。説明ではなく、素朴な驚きや笑いを代弁する“ツッコミ”で、YOUたちの面白さを引き立てています。

その空気感を生み出すための工夫をお聞かせください。

『YOUは何しに日本へ?』は、YOUへのインタビューからすべてが始まります。面白そうなYOUを探す時に、国籍や固定概念は不要。常にフラットなスタンスを心がけています。ですから、個々のディレクターにとっては感性やコミュニケーション力がダイレクトに試される場です。現場の感情を視聴者へストレートに伝える演出を意識しています。まずは、現場でしか出会えないネタを見逃さずキャッチするのが大切です。

現場と言えはもちろん空港、そして密着取材の先々でも大勢の方と接点がありますね。

成田空港は、いわばこの番組の生命線。取材も寛容に受け入れていただい



『YOUは何しに日本へ?』
2013年9月2日(月)放送
「YOUは何しに大賞・密着部門第1位」に輝いた“伝説のノーブル自転車旅”のドイツ人・マーティンさん

ており、今後も良い関係性を大切にしていきたいですね。また、YOUの行動次第では、密着中に様々な取材交渉が発生します。現場でのガチンコ取材だけに、細心の注意と礼儀を払うよう徹底。プロデューサー陣も、何かあればすぐに向く覚悟はしています。

現場で足を使い、予定調和ではない面白さを追い求めるところは、テレビ東京らしさの表れではないでしょうか？

そうですね。まさしく、何十年も地道に素人を追いかけ続けてきた“素人専門局”の伝統が生きていると思います。地味なようですが、人間の表情や感情を丁寧に拾い上げる目と力を持っています。『YOUは何しに日本へ?』でも喜怒哀楽の4つにとどまらず、その間に生まれた感情の機微も逃さないようにしています。いわゆる紋切型の演出ではなく、いじっていじっていじり倒して最後にちょっとだけ泣けるような、感情豊かな

番組でありたいなと考えています。

実際に視聴者からの反響はいかがですか？

ありがたいことに、若い世代から年配の方まで幅広くご好評いただいています。たとえば、20代の方から「久しぶりに父親と一緒にテレビを見た」と言うお声寄せられるなど、作り手の想定以上に間口の広い番組として受け入れられているようです。

では、改めて『YOUは何しに日本へ?』の持つ社会に対する影響力についてお聞かせください。

1つは、日本の魅力を再発見できること。YOUたちは実に多様な目で日本を見つめ、思いもよらない日本の良さを教えてくれています。もう1つは、新しい国際交流のかたちを伝えられること。今は世界中の情報が瞬時に手に入りますが、社会問題や政治情勢などは国対国のマクロな見方、伝え方になりがちです。しかし『YOUは何しに日本へ?』が伝えたいのはYOU対ディレクター、すなわち person to person の結びつき。陽気な人もいれば内気な人もいて、個人で向き合った時に人種や国籍は関係ないんですよ。すごく小さな次元の交流からYOUたち一人ひとりの魅力を見出し、その中で多様な文化を理解し、共感する芽を育めるのではないかと考えてい

ます。

最後に、これから『YOUは何しに日本へ?』をどんな番組にしていきたいですか？

実は、番組認知度の向上と共に、予想外の面白さを発見し伝える難しさを感じ始めています。しかし、この番組は必ずしもスケールの大きなトピックスばかりを取り上げるわけではありません。むしろ、地味な事柄や些細な感情の中に思いがけず潜むドラマを見逃さず、きちんと拾い上げられる感性を守り続けていきたいですね。

野望は…2020年の東京オリンピックまで番組を継続すること。世界中から面白いYOUが大集結するチャンスを逃す手はないですから(笑)。それまで地道に、マイペースに面白い番組づくりを続けていくのが目標です。



PROFILE

制作局CP制作チーム
村上徹夫

2006年中途入社。テレビ業界に入った1990年代に、「浅草橋ヤング洋品店」を始めとするやんちゃでスリリングなテレビ番組の面白さに感銘を受けた。その頃の精神を忘れることなく、おとなしくならず挑戦的な番組づくりをモットーとしている。

※経歴はP.3参照